

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区有明3-11-6 TFTビル 3階
施設名	ニチイキッズありあけ保育園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

「稲」

〈テーマの設定理由〉

毎日食べる身近な食材でありながら、栽培方法について見聞きした事がない稲について子どもたちの興味関心が増していたから。

2 活動スケジュール

- 1、絵本や図鑑を使って「稲」への興味関心を育てる。
- 2、「芽出し」を行う。体験→シャーレに種もみを入れ水に浸し、発芽させる。
- 3、「土づくり」。体験→黒土、赤玉土、鹿沼土を6：3：1の割合で混ぜ、乾かす
- 4、「田植え」。体験→土や水を混ぜ、泥になったバケツに苗を植える。
- 5、稲の生育。体験→苗の移し替えや中干し、稲穂になった様子を観察。
- 6、稲刈り。体験→世田谷区 次太夫堀公園にて稲刈り体験。
- 7、もちつき。体験→稲からとれたもち米が餅になる過程を体験。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

絵本や図鑑・バケツ稲セット（バケツ・棚等）・臼と杵 等

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

まず、図鑑や絵本を用意して稲についての興味が増すように関わった。芽出しをシャーレの中で行い、根と芽の違いを観察した。根は白く芽は緑。根と芽の成長速度には差がある事がわかった。なぜ、違いがあるのか自分なりの答えを考え発表する時間を設けた。土づくりでは3種類の土を混ぜて日光で消毒し、水と混ぜて田んぼを作った。日光で消毒することへの疑問を解決するために絵本や図鑑を使って答えを探った。田植えでは泥の感触に興味を持って積極的に活動する姿がみられた。自分たちで一から取り組んでいた為、成長への興味が増し毎日の観察を子どもたちから希望する事が増えた。夏の酷暑で稲が枯れてしまった。なぜ枯れてしまったのか、次はどうすればよいか考える機会になった。稲刈り体験では、初めて鎌を使って稲を刈った。手触りや匂いにも興味を持っていた。餅つき体験では蒸す前のもち米にも触れる機会を設けた。実際に杵を使ってもち米を突くとお餅になる様子を見て喜ぶ姿があった。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

導入部分では、複数の絵本（稲について取り上げたもの）や図鑑（植物や野菜）を用意する事で興味を広げる事が出来た。「米」といっても様々な品種がある事を知り、各家庭で保護者と話す機会を設けて、自分の家では「〇〇」など興味を深める事が出来た。種もみを観察すると、お米に似てるけど、色が違う。お米って堅いな。など様々な感想を持っていた。種もみをシャーレに入れて水に浸すと瞬間に芽や根が出て子どもたちの関心はどんどん増していった。野菜の栽培（苗から）では見る事が無かった根と芽の違いを観察する事が出来た。田植えでは、シャーレの中から大切に芽や根が傷つかないように慎重に扱う姿が見られた。夏の暑い時期でも稲の観察に積極的に参加した。葉を触って、今まで育てた野菜の葉との違いに驚く姿があった。何かの葉っぱに似てる・・・と気が付いて、戸外活動時似た葉っぱを探す子どももいた。餅つき体験では普段食べている白米と見た目は一緒なのに杵で打つとお餅になる。お餅になるまでには何度も突かなくてはならず、大変だね。手が疲れた。など普段とは違う体験に目を輝かせていた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

子どもたちは大人よりも敏感に変化に気が付く事を実感した。たくさんの変化の中から不思議や疑問を自ら見つけ考える力を持っていると感じた。どうして？なんで？の答えを探る過程では自分で答えを予想する機会を大切にしたい。答えを自ら考えて発表する事で、友だちの意見にも興味を持って聞いたり認めたりする事が増えた。自分たちで育てた稲が収穫できなかったことも、なんでだろう？こうすればよかった？次は絶対収穫したい！など子どもたちの持つ前向きな気持ちに驚かされた。